

この冬の特徴

～ 記録的な暖冬・少雪 ～

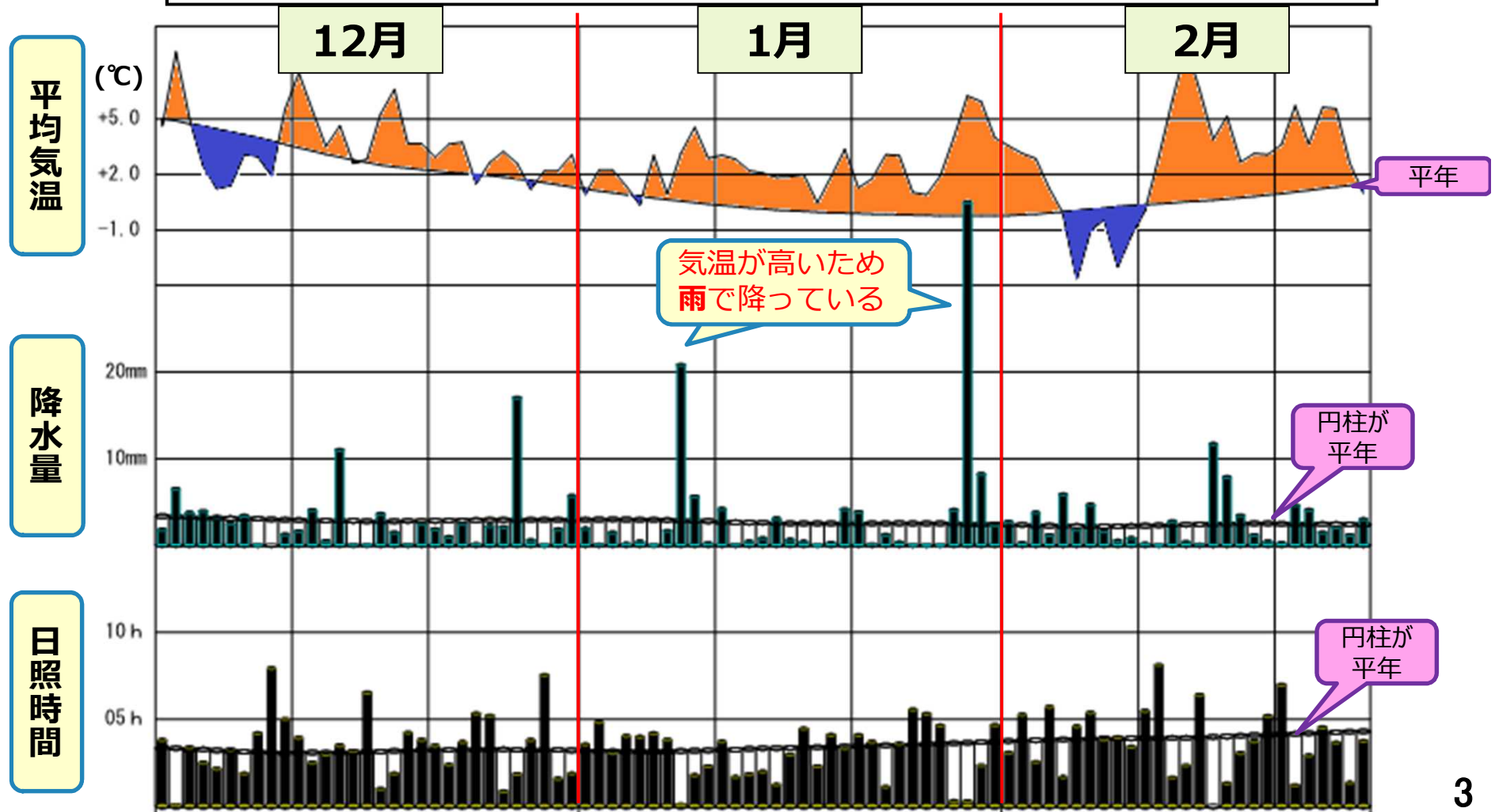
～ 仙台市水防協議会 ～

令和2年(2020年)6月

仙台管区气象台気象防災部 予報課

今冬の気温・降水量・日照の推移（東北地方）

- 平均気温は、**平年より高い状態が持続**。
- 降水量は平年より多かったものの、気温が高いため、**雨**として降ることが多かった。

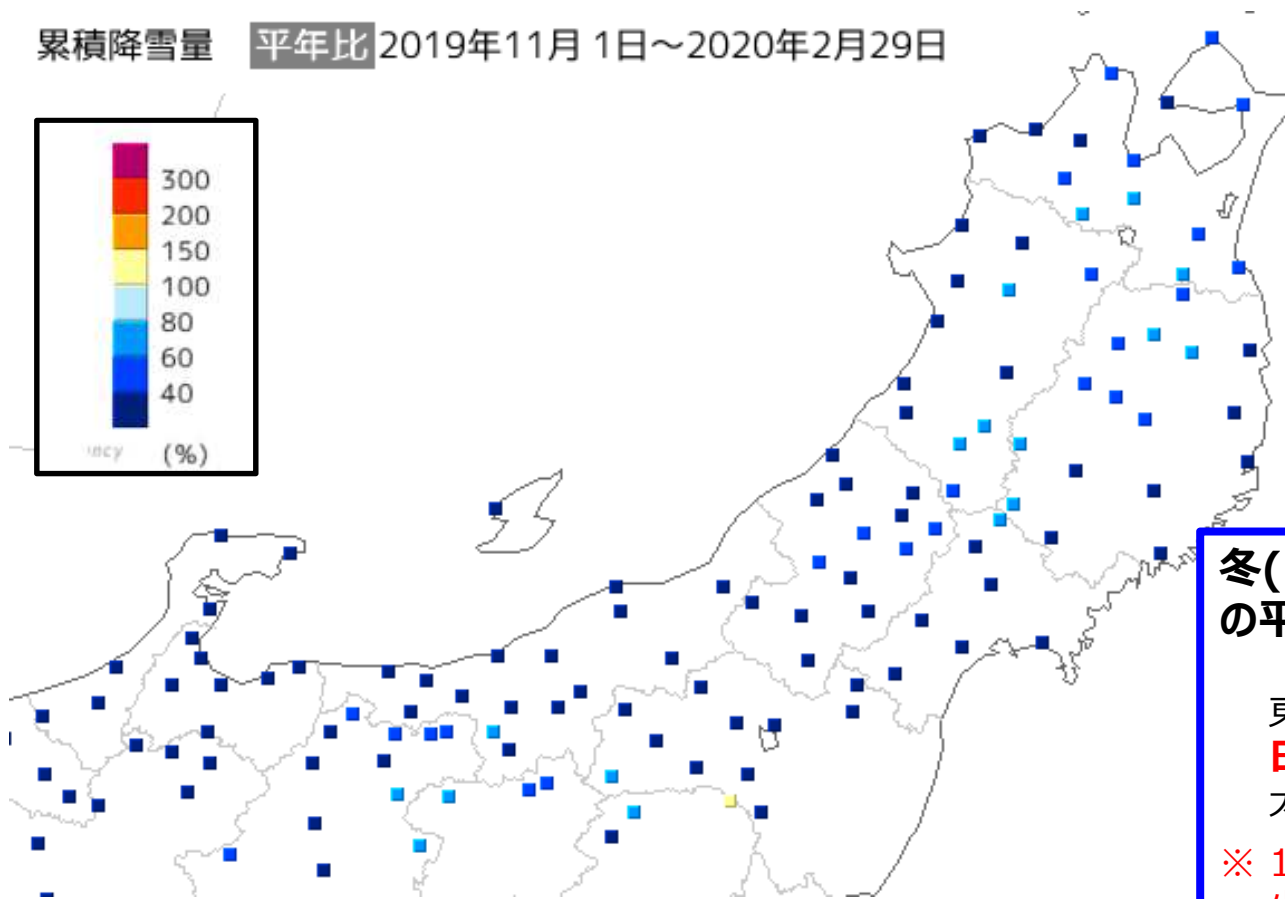
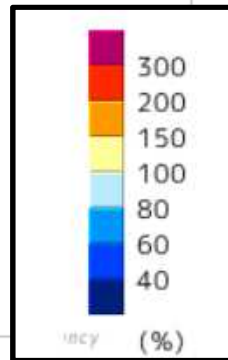


今冬の降雪量（平年との比較）

➤ 今冬の東北日本海側の降雪量は**最少**を記録※

※1961年の統計開始以来

累積降雪量 平年比 2019年11月1日～2020年2月29日



冬(12~2月)の降雪量の平年比と階級

東北全域 26% (かなり少)

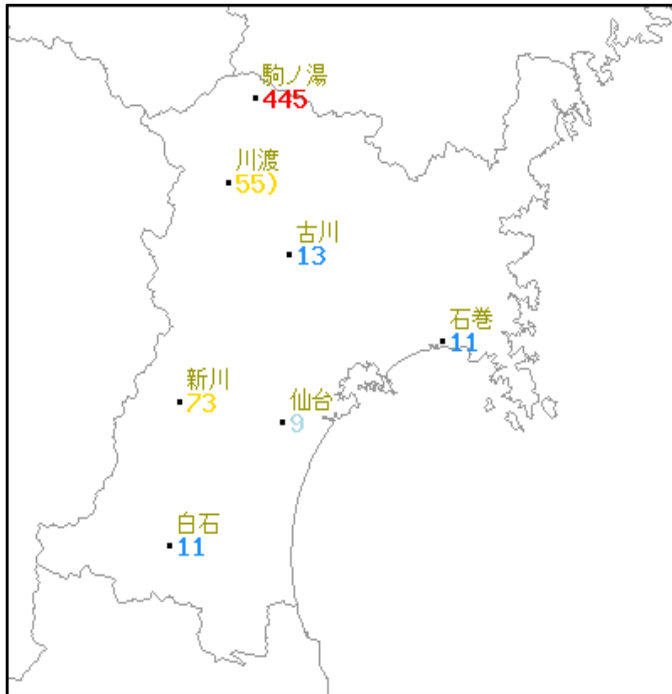
日本海側 24% (かなり少) ※

太平洋側 27% (かなり少)

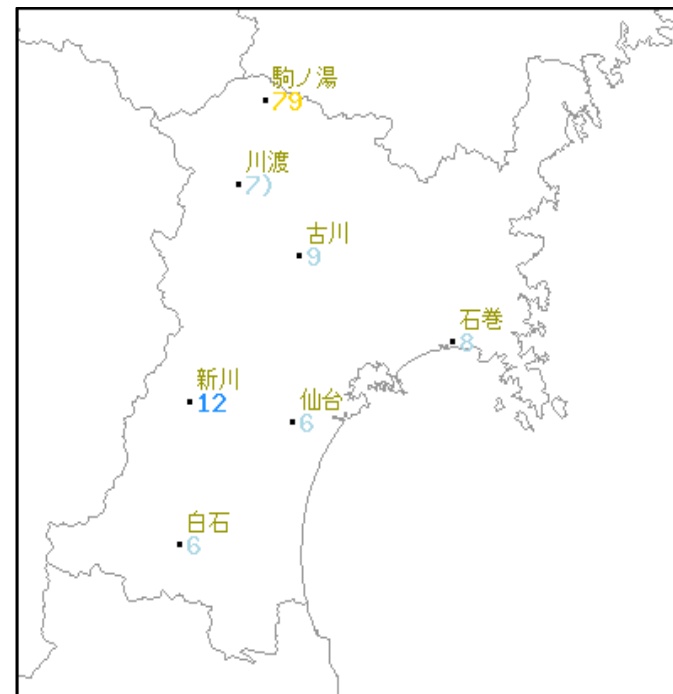
※ 1961年の統計開始以来、
少ない方からの**1位**を記録

(これまでの1位 33%
2006/07年冬)

今冬の雪の推移



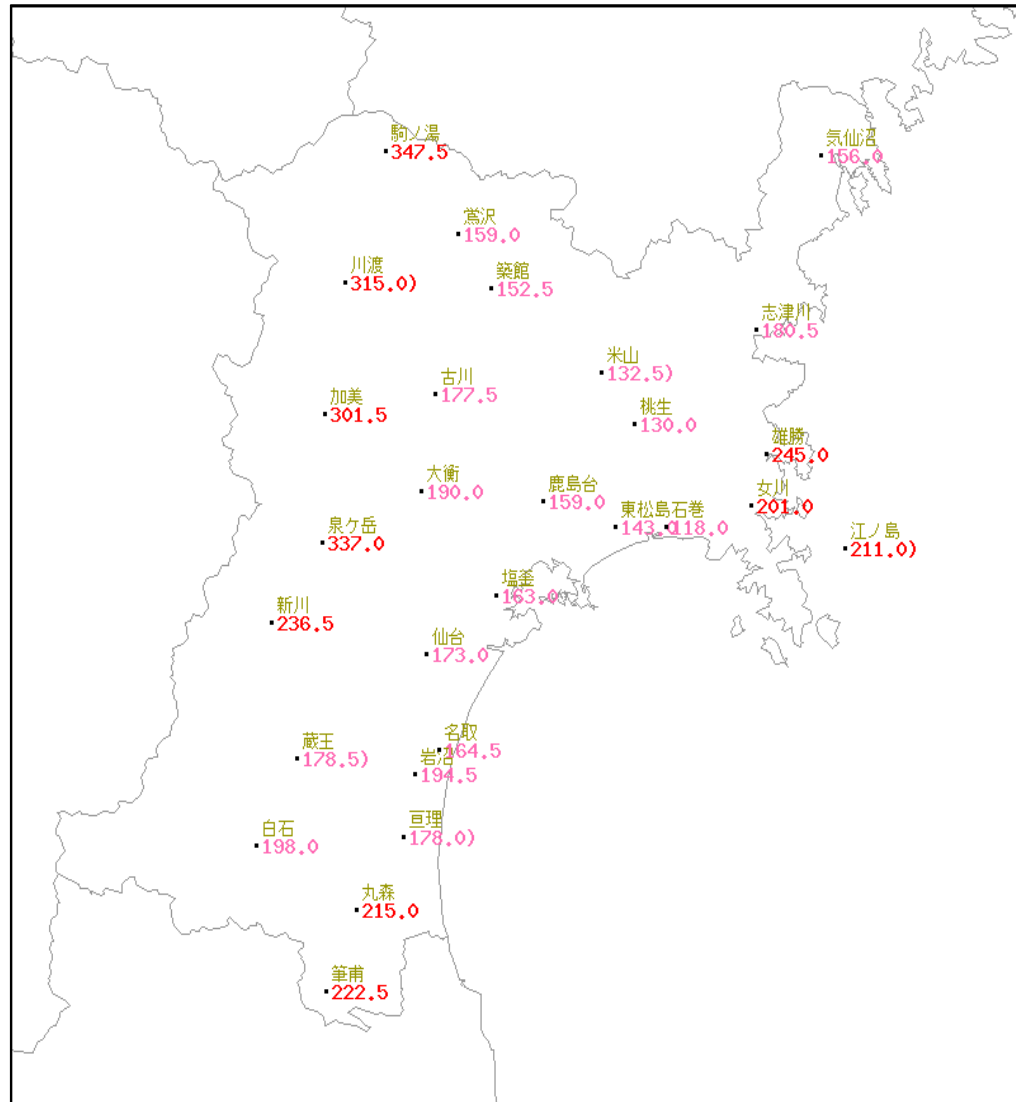
アメダス累積降雪量(cm)
(2019年12月～2020年2月)



アメダス最深積雪(cm)
(2019年12月～2020年2月)

観測地点名	駒ノ湯	川渡	古川	石巻	新川	仙台	白石
累積降雪量	445cm	55cm	13cm	11cm	73cm	9cm	11cm
平年比	65%	15%	8%	29%	23%	15%	12%
最深積雪 (月日)	79cm (2/9)	7cm (1/8)	9cm (1/8)	8cm (2/10)	12cm (2/10)	6cm (2/10)	6cm (1/8)

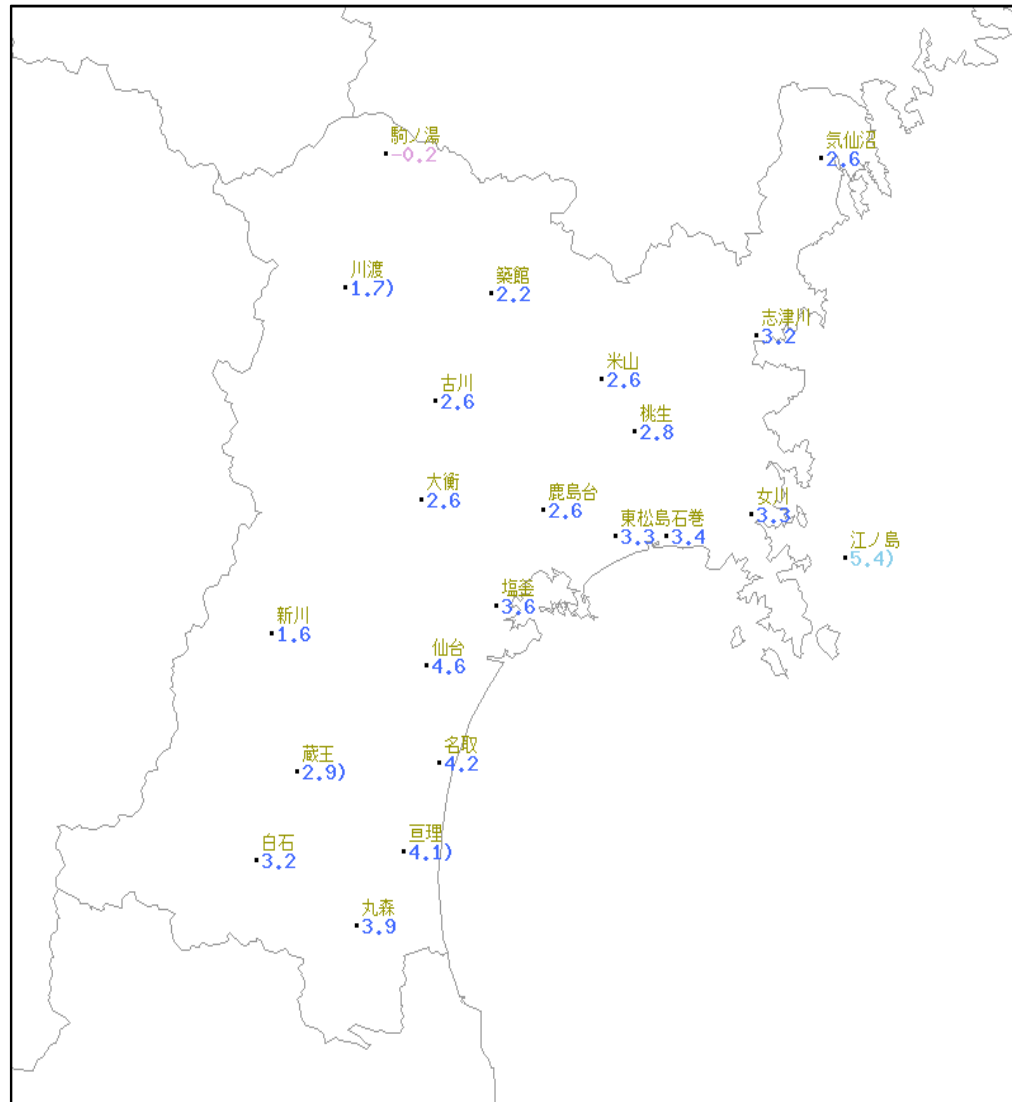
今冬の降水量の推移



アメダス積算降水量(mm)
(2019年12月～2020年2月)

地点名	実況値	平年値	平年比(%)
駒ノ湯	347.5	344.0	101.0
気仙沼	156.0	131.6	119.0
鶯沢	159.0	191.9	83.0
川渡	315.0)	300.8	105.0
築館	152.5	119.1	128.0
米山	132.5)	98.5	135.0
志津川	180.5	131.2	138.0
加美	301.5	//	//
古川	177.5	131.1	135.0
桃生	130.0	//	//
雄勝	245.0	168.9	145.0
泉ヶ岳	337.0	//	//
大衡	190.0	160.9	118.0
鹿島台	159.0	102.9	155.0
東松島	143.0	//	//
石巻	118.0	107.9	109.0
女川	201.0	//	//
新川	236.5	215.9	110.0
塩釜	163.0	108.8	150.0
江ノ島	211.0)	132.5	159.0
仙台	173.0	116.2	149.0
岩沼	194.5	//	//
名取	164.5	127.6	129.0
白石	198.0	134.2	148.0
蔵王	178.5)	//	//
亶理	178.0)	121.9	146.0
丸森	215.0	128.7	167.0
筆甫	222.5	164.1	136.0

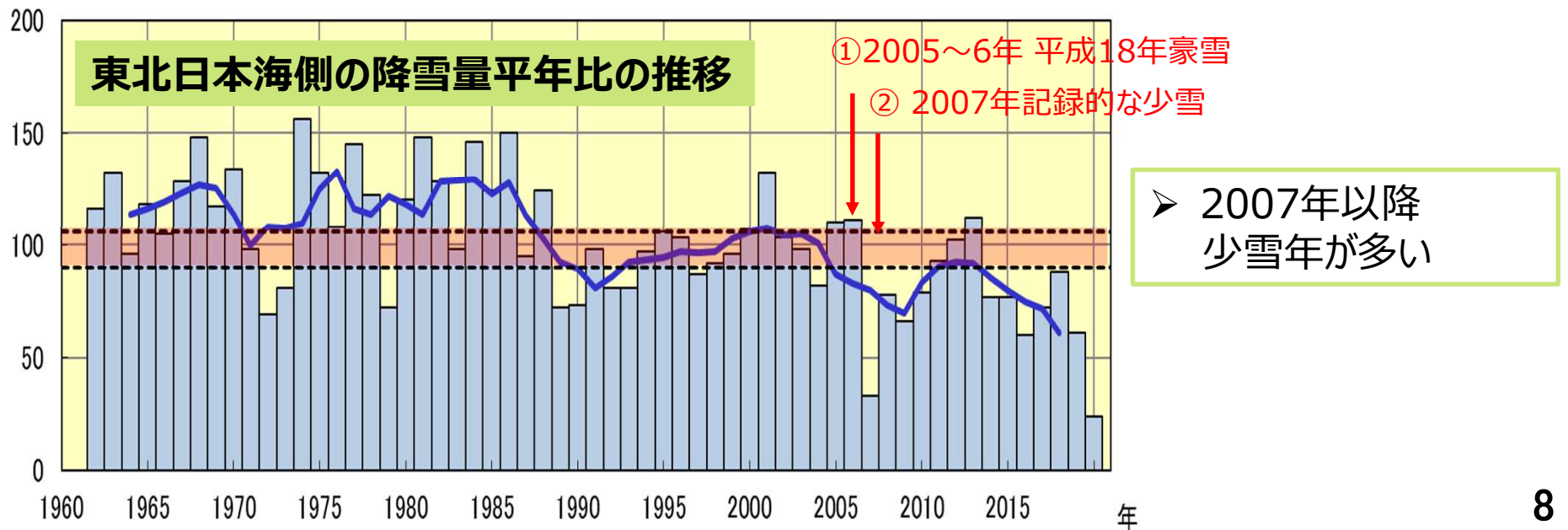
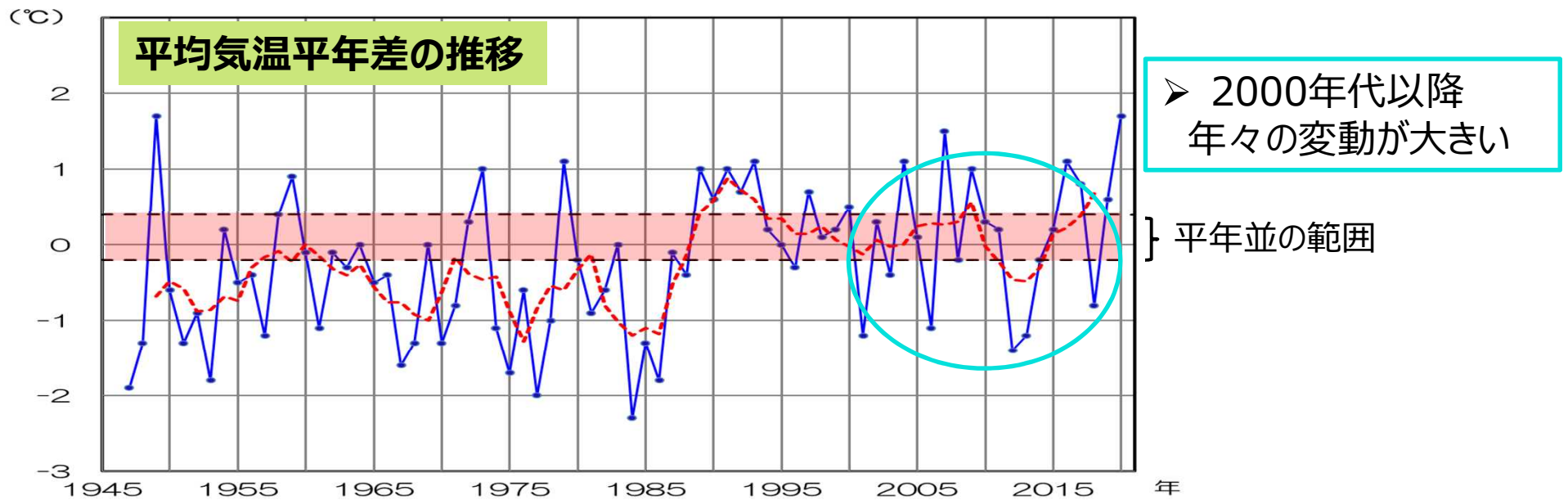
今冬の平均気温の推移



アメダス平均気温(°C)
(2019年12月～2020年2月)

地点名	実況値	平年値	平年差
駒ノ湯	-0.2	-1.9	+1.7
気仙沼	2.6	1.2	+1.4
川渡	1.7)	0.1	+1.6
築館	2.2	0.6	+1.6
米山	2.6	0.8	+1.8
志津川	3.2	1.6	+1.6
古川	2.6	1.1	+1.5
桃生	2.8	//	//
大衡	2.6	1.1	+1.5
鹿島台	2.6	1.2	+1.4
東松島	3.3	//	//
石巻	3.4	1.9	+1.5
女川	3.3	//	//
新川	1.6	0.1	+1.5
塩釜	3.6	1.7	+1.9
江ノ島	5.4)	3.7	+1.7
仙台	4.6	2.8	+1.8
名取	4.2	2.9	+1.3
白石	3.2	2.1	+1.1
蔵王	2.9)	//	//
巨理	4.1)	2.7	+1.4
丸森	3.9	2.1	+1.8

これまでの東北地方の冬（12月～2月）の傾向

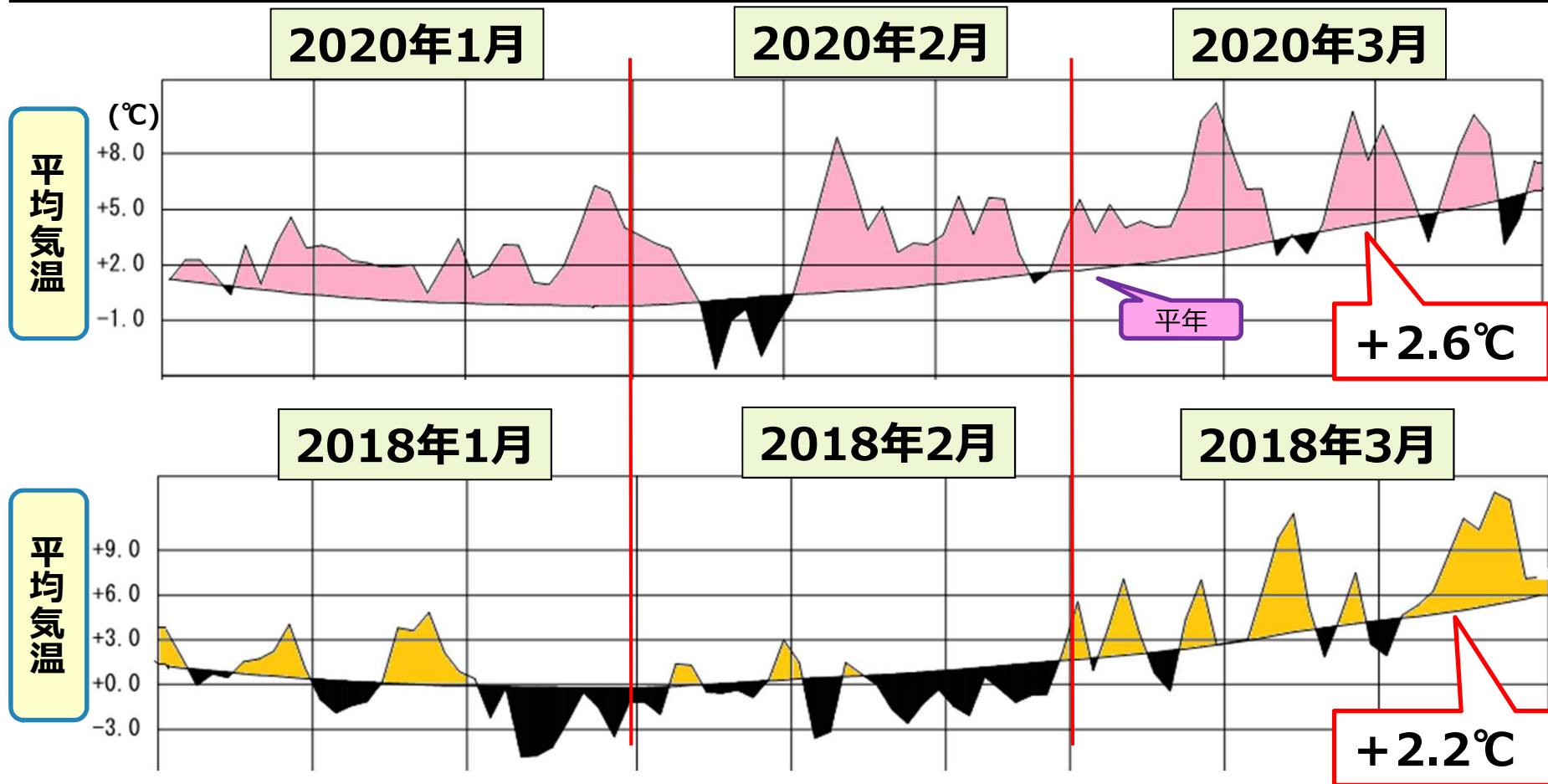


これまでの1位（2018年3月）との気温の比較

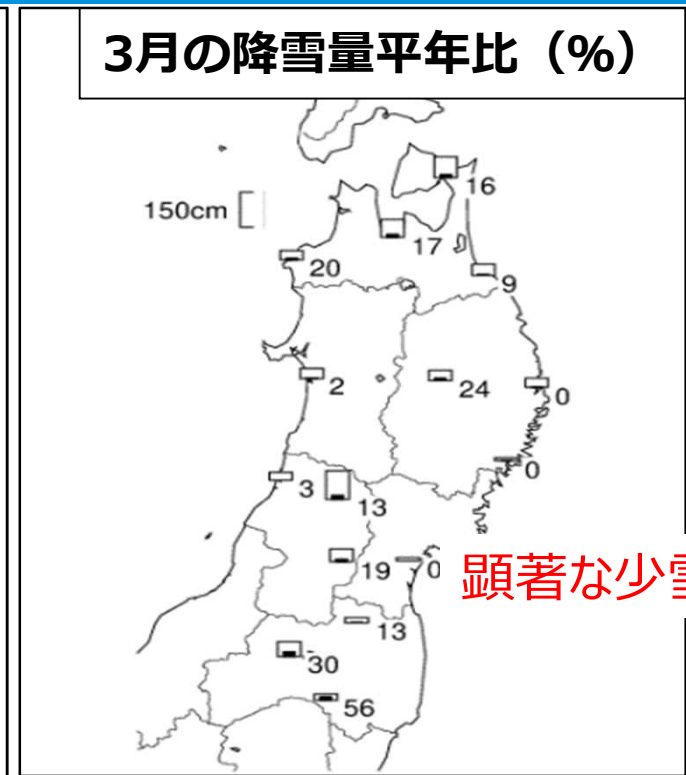
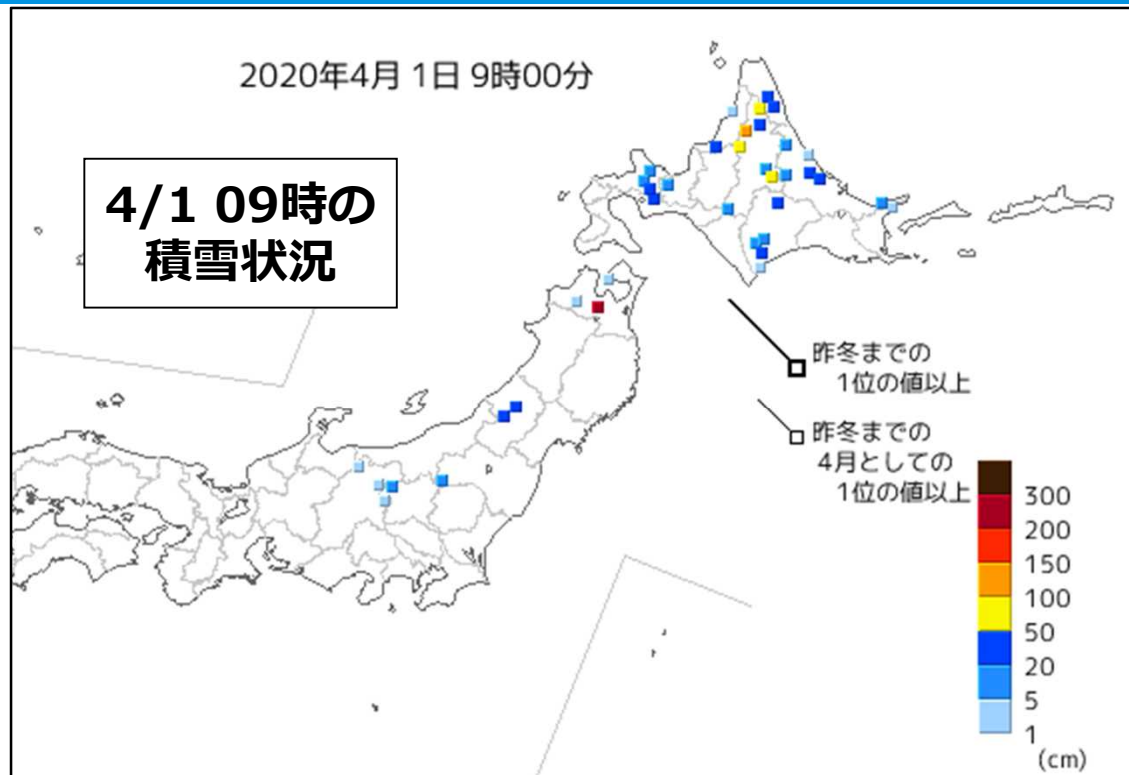
2018年3月は高温だったが、1月と2月の東北地方の平均気温は平年を下回った。

2020年は1月から平年より**高い**状態が持続。

2020年3月の平均気温は、平年より2.6℃高く、1946年の統計開始以降、最高を更新。



4月1日時点の積雪の状況



● 雪解けが早い

積雪が少なく、気温が高いため、雪解けが早い。4月以降の降水量にもよるが、雪解け水の供給が十分でなく、**水不足**となる可能性もある。

3月の降雪量の平年比と階級

東北全域 14% (かなり少) ※
日本海側 15% (かなり少) ※
 太平洋側 13% (かなり少)

※ 1961年の統計開始以来、
 少ない方からの**1位を記録**
 (これまでの1位 東北21% 2018年)
 (" 日本海側20% 2018年)



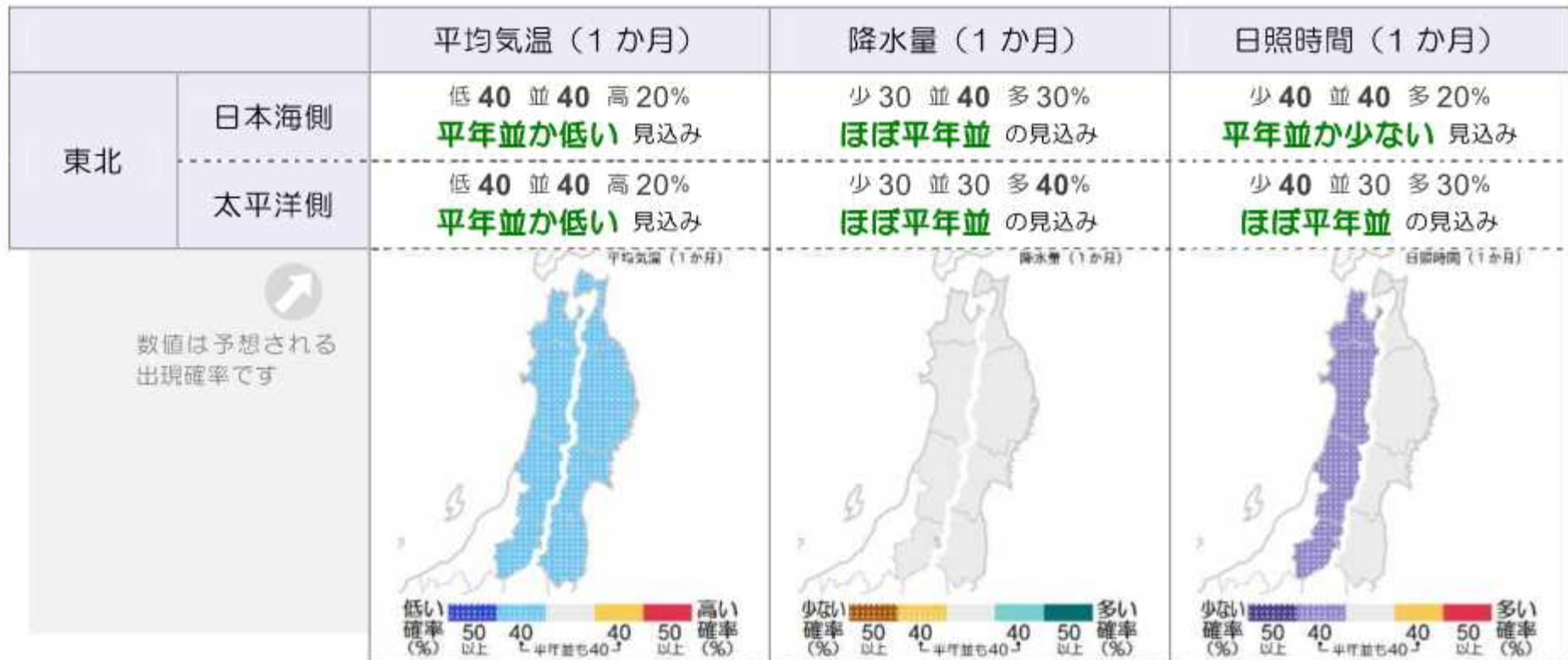
東北地方 4～6月の天候の見通し

～4/16発表の1か月予報～

～3/25発表の3か月予報～

1か月予報（平均気温・降水量・日照時間）

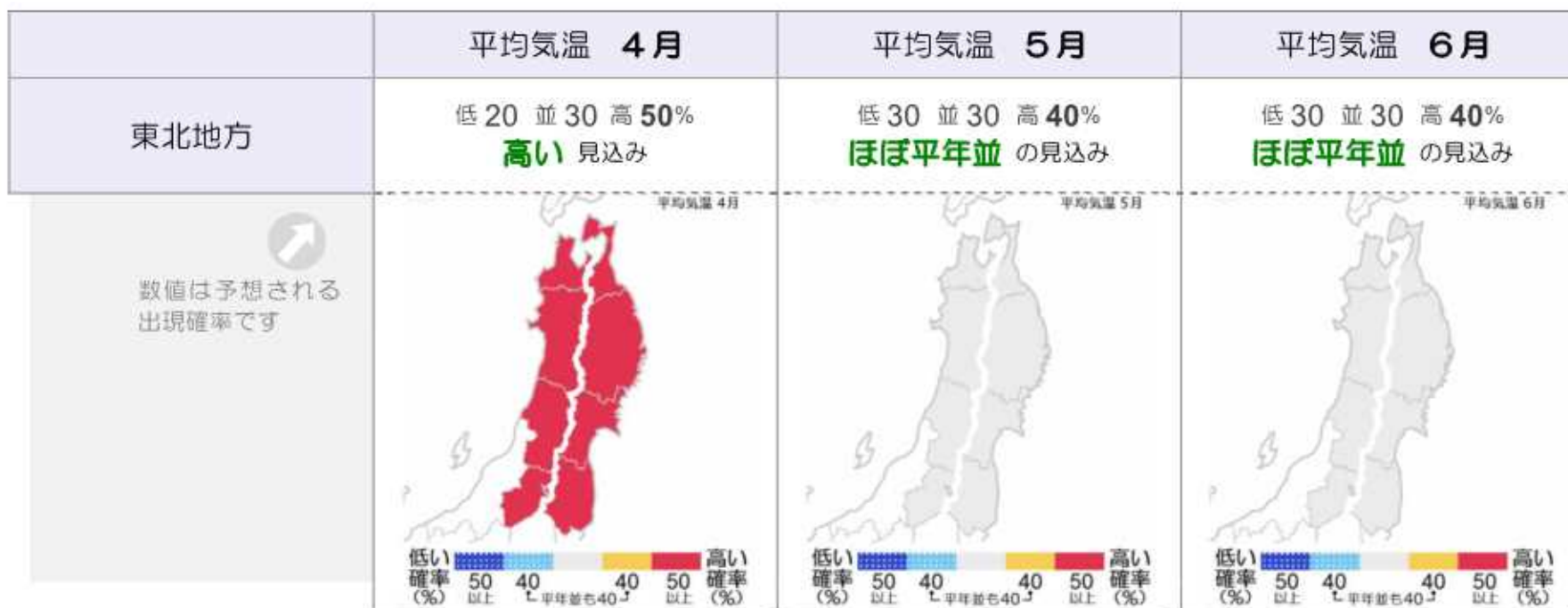
- 気温は、**平年並みか低い**見込み。
- 降水量と日照時間は、**ほぼ平年並み**の見込み。
（東北日本海側の日照時間は平年並みか少ない見込み）



<次回発表予定> 1か月予報：毎週木曜日 14時30分

3か月予報（月別の平均気温）

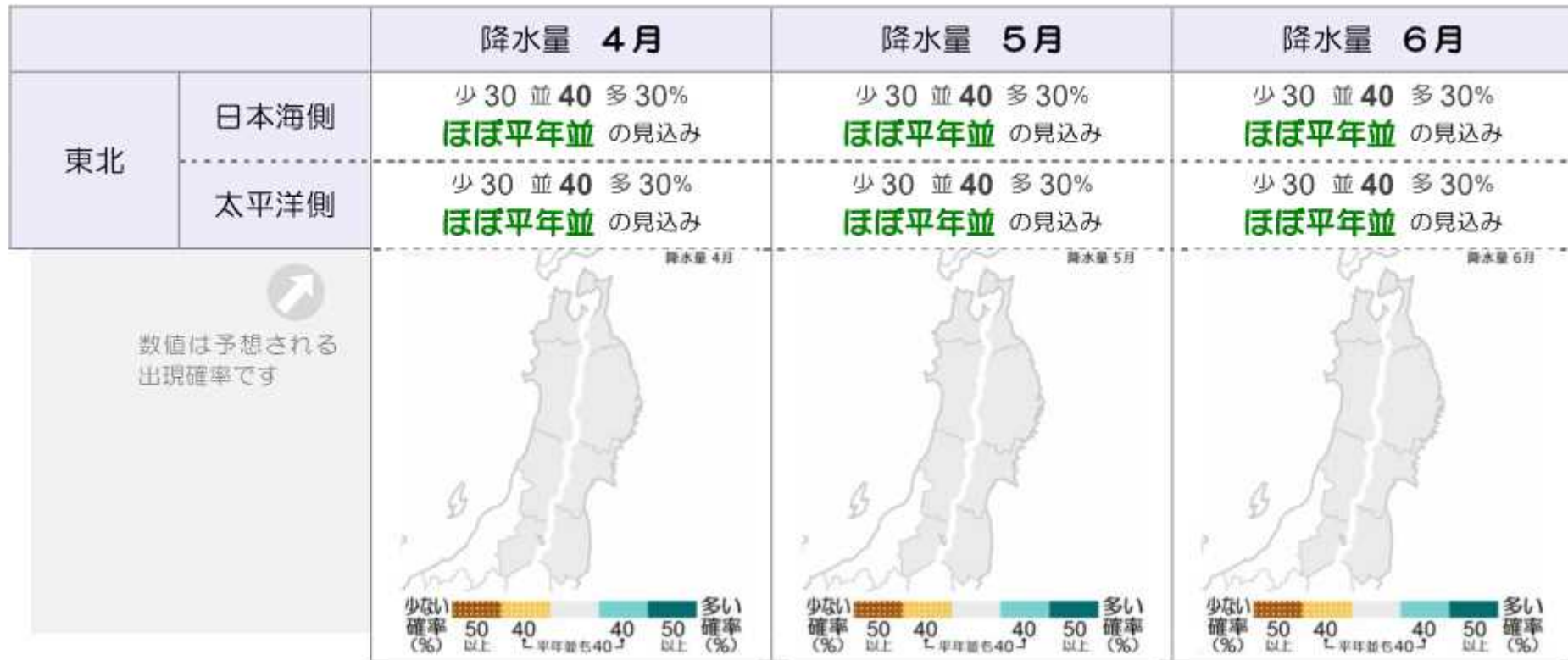
➤ 気温の高い傾向は収まる見込み。



- 4月は北極振動が正（極域に寒気が蓄積し、中緯度帯に寒気が流れ込みにくいパターン）の傾向が予想され、日本付近が暖かい空気に覆われやすい傾向
- 5月は地球温暖化+亜熱帯ジェット以南偏
- 6月は地球温暖化+亜熱帯ジェット以南偏+オホーツク海高気圧出現の可能性

3か月予報（月別の降水量）

➤ 降水量は、ほぼ平年並の見込み。

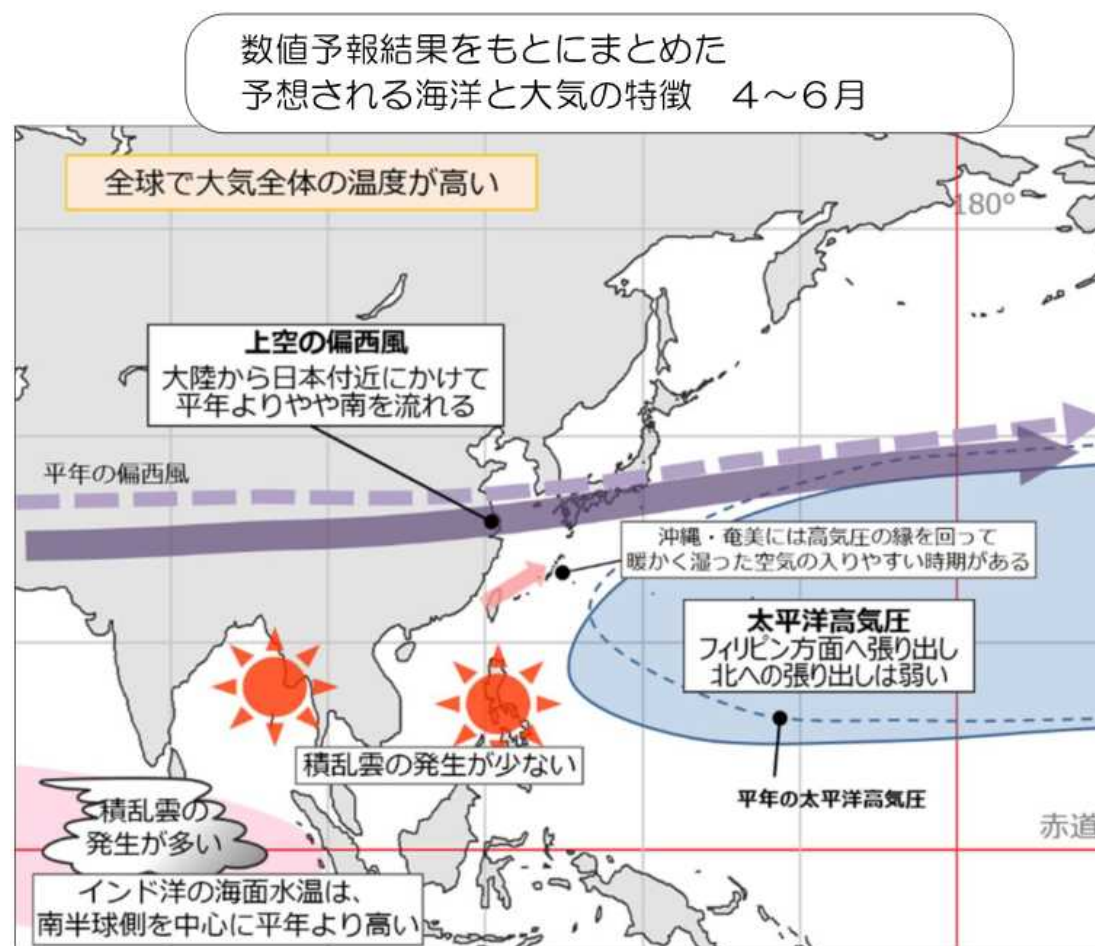


記録的な少雪のため、雪解け水の不足による渇水が懸念される。
梅雨前線の北上は遅い見込みだが、東北地方への影響は小さい。

<次回発表予定> 3か月予報 次回は 5月25日（月）14時

向こう3か月の大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- インド洋の海面水温は、南半球側を中心に高く、インド洋では積乱雲の発生が多い領域が平年より南に偏るでしょう。一方、インド洋の北部からフィリピンの東にかけ、積乱雲の発生が少ないでしょう。
- これらの影響で、上空の偏西風はユーラシア大陸から日本付近にかけ、平年よりやや南を流れるでしょう。
- 太平洋高気圧はフィリピン方面に張り出し、北への張り出しは弱いでしょう。
- 期間のはじめは正の北極振動が持続し、北日本を中心に暖かい空気に覆われる時期があるでしょう。





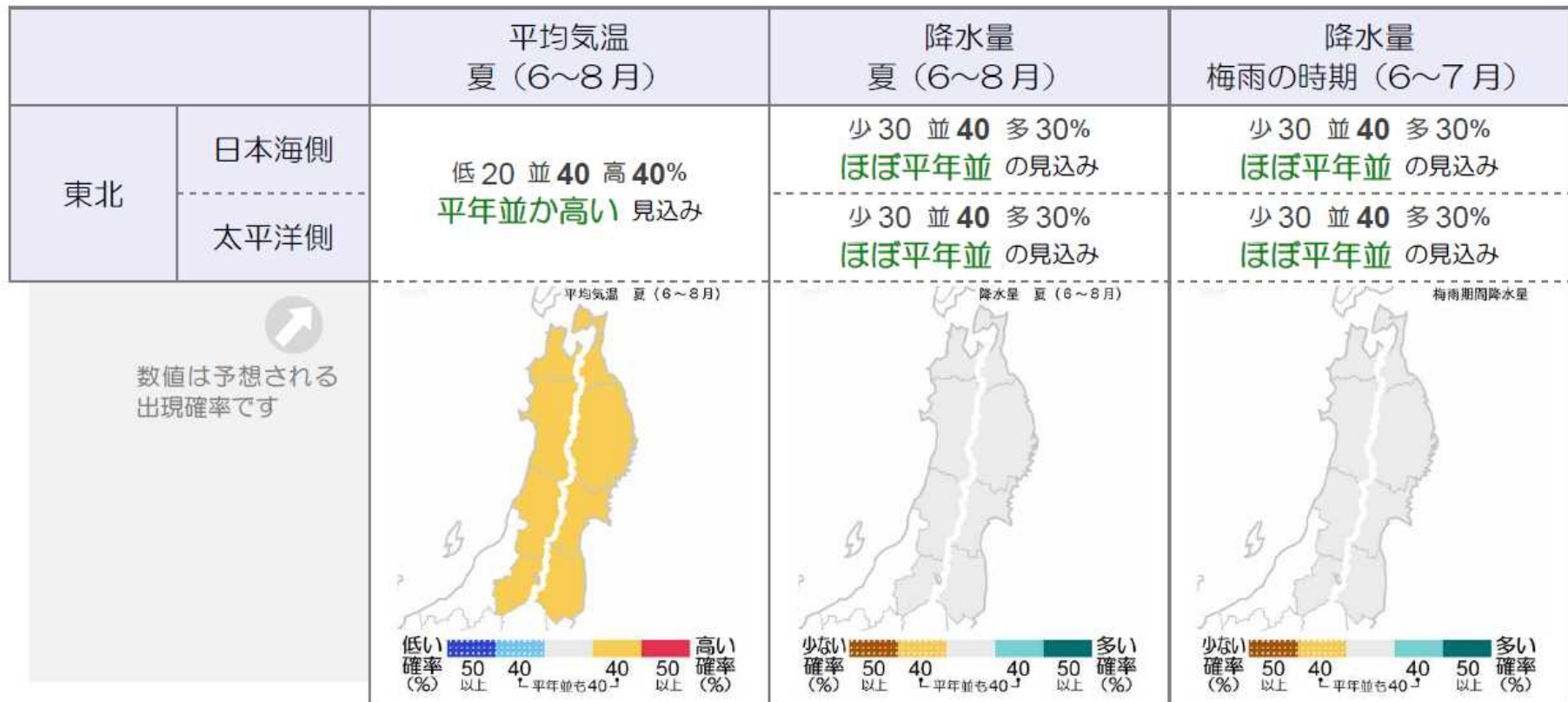
東北地方 6～8月の天候の見通し

～2/25発表の暖候期予報～

暖候期予報

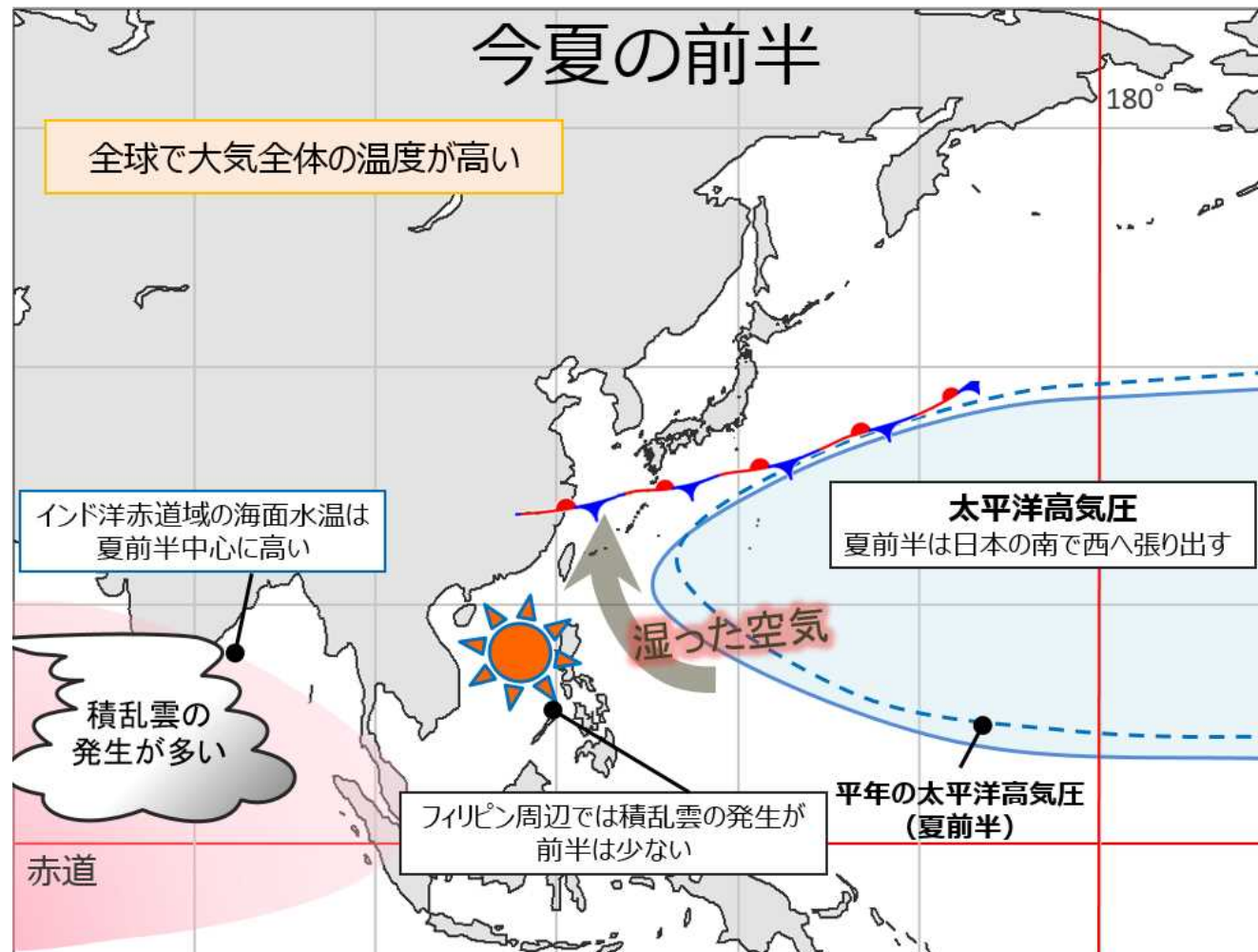
- 夏の平均気温は、平年並か高い見込み。
- 夏の降水量は、梅雨の時期も含めて、ほぼ平年並の見込み。

夏（6～8月）の平均気温・降水量



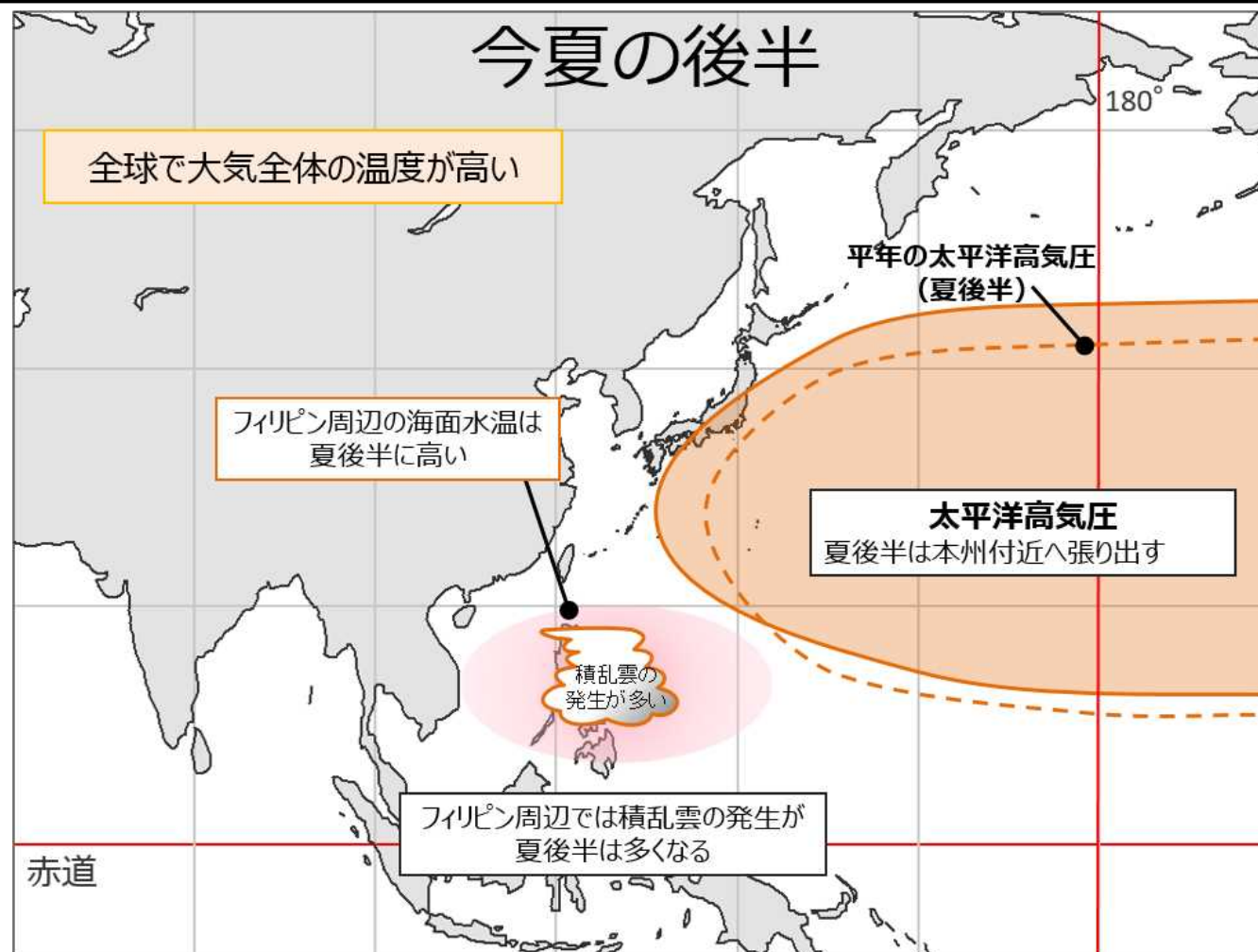
夏（前半）の大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高い。
- 熱帯域の海面水温はインド洋で高い。フィリピン周辺では積乱雲の発生が少ない
- 太平洋高気圧の勢力は、日本の南で西への張り出しが強い。

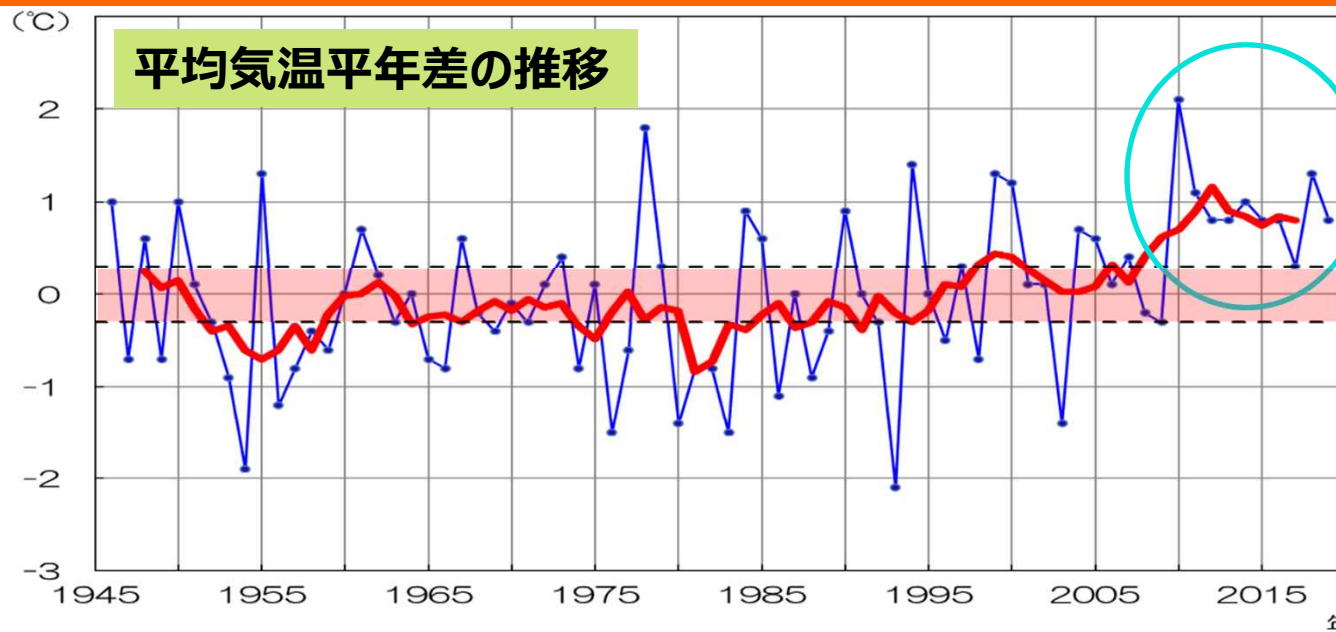


夏（後半）の大気の特徴

- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高い。
- 熱帯域の海面水温は、フィリピン周辺で高くなり、積乱雲の発生が多くなる。
- 太平洋高気圧の勢力は、本州付近への張り出しが強い。
- 上空のチベット高気圧はやや強く、偏西風は日本付近で平年よりやや北を流れる。

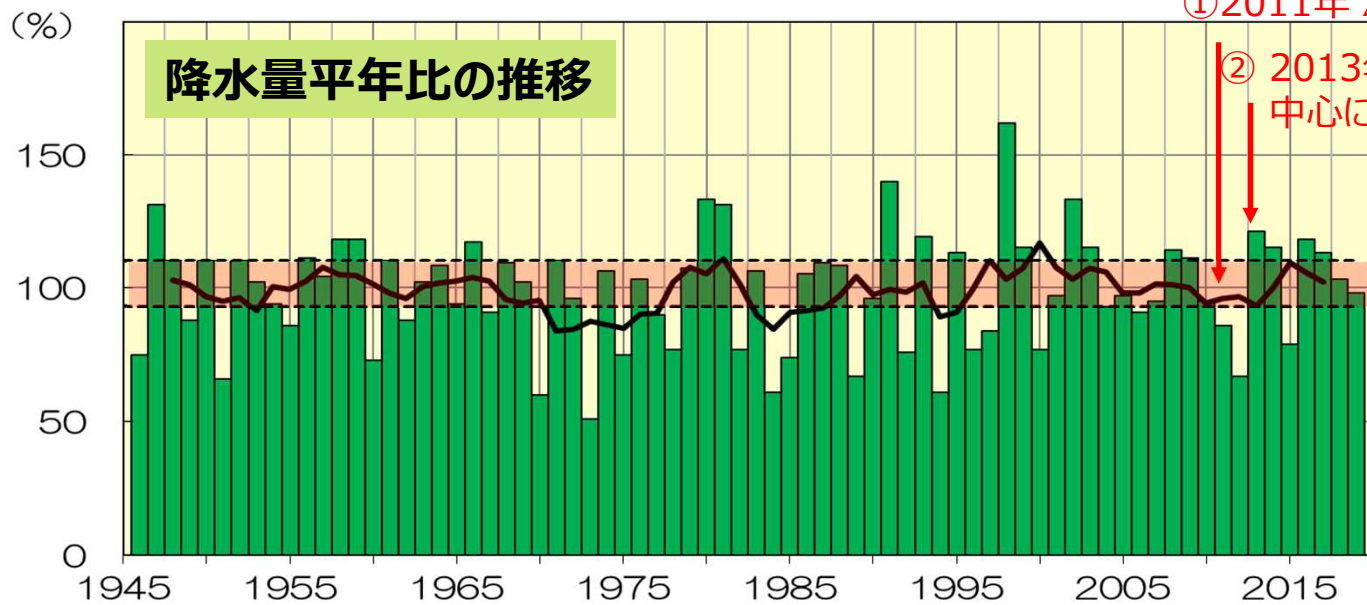


これまでの東北地方の夏（6～8月）の傾向



➤ ここ10年は平年より高い傾向にある。

} 平年並の範囲



① 2011年7月新潟・福島豪雨

② 2013年8月 秋田・岩手県を中心に記録的な豪雨
(仙北市で6名死亡)

➤ 平年との多少に関わらず、豪雨は発生している。

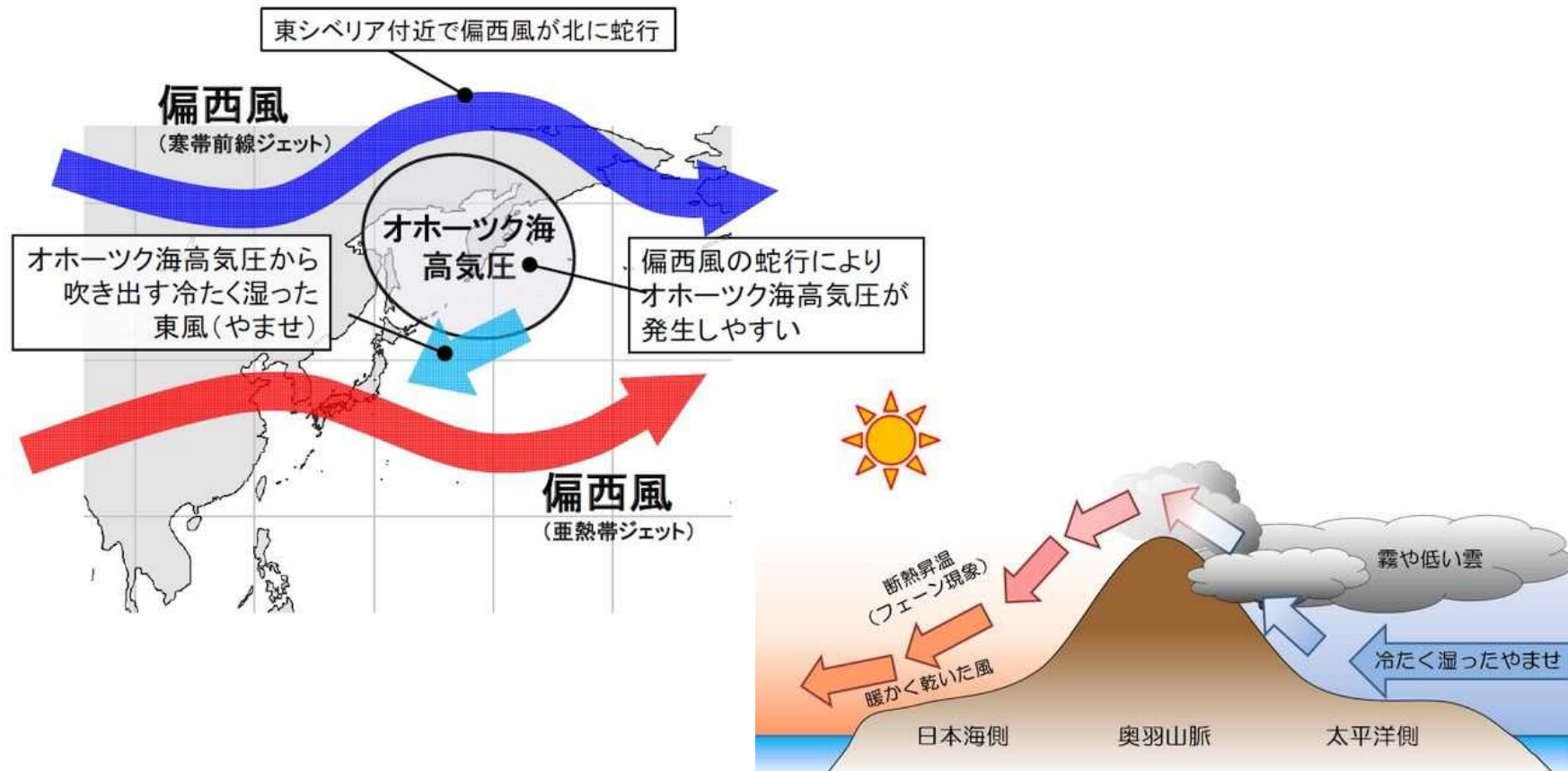
東北地方の梅雨入りと梅雨明け

東北南部				東北北部			
年	入り	明け	梅雨の時期の降水量の 年比（地域平均値）（%）	年	入り	明け	梅雨の時期の降水量の 年比（地域平均値）（%）
2010年	6月14日ごろ	7月18日ごろ	108.0	2010年	6月16日ごろ	7月18日ごろ	113.0
2011年	6月21日ごろ	7月 9日ごろ	110.0	2011年	6月21日ごろ	7月 9日ごろ	70.0
2012年	6月 9日ごろ	7月26日ごろ	86.0	2012年	6月 9日ごろ	7月26日ごろ	86.0
2013年	6月15日ごろ	8月 7日ごろ	139.0	2013年	6月15日ごろ	8月10日ごろ	110.0
2014年	6月 5日ごろ	7月25日ごろ	99.0	2014年	6月 6日ごろ	7月25日ごろ	109.0
2015年	6月26日ごろ	7月26日ごろ	66.0	2015年	6月26日ごろ	7月29日ごろ	87.0
2016年	6月13日ごろ	7月29日ごろ	70.0	2016年	6月13日ごろ	7月29日ごろ	91.0
2017年	6月30日ごろ	—	110.0	2017年	7月 1日ごろ	—	118.0
2018年	6月10日ごろ	7月14日ごろ	43.0	2018年	6月11日ごろ	7月19日ごろ	99.0
2019年	6月 7日ごろ	7月25日ごろ	118.0	2019年	6月15日ごろ	7月31日ごろ	70.0
平 年	6月12日ごろ	7月25日ごろ		平 年	6月14日ごろ	7月28日ごろ	

- ・「—」は、梅雨入り梅雨明けの時期がはっきりしなかったため、特定しなかった場合を表します。
- ・「平年」は、平成22年（2010年）までの過去30年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。
- ・「梅雨の時期の降水量の年比（地域平均値）」は、全国の気象台・測候所等での観測値を用い、概ね梅雨の期間に相当する6～7月（沖縄と奄美は5～6月）の2か月間降水量の年比(%)を各地域で平均したものです。

(参考) オホーツク海高気圧と「やませ」

優勢なオホーツク海高気圧は6月から7月に現れることが多く、偏西風の蛇行が持続すると数週間にわたり停滞することがあります。この高気圧は下層に寒気を伴っており、北海道～関東地方の太平洋沿岸に向かって冷たく湿った東よりの風（やませ）が吹きつけ、低温や日照不足をもたらします。日本海側では、奥羽山脈に遮られるためやませの影響が小さく、晴れて気温が高くなり、奥羽山脈の東西で気温と日照時間のコントラストが明瞭となります。



季節予報の発表予定

2週間気温予報（毎日 14時30発表）

1か月予報（14時30発表）

毎週木曜日

3か月予報（14時発表）

2020年

5月25日（月）、6月24日（水）、7月22日（水）、8月25日（火）

9月25日（金）、10月23日（金）、11月25日（水）、12月25日（金）

暖候期予報（14時発表）

2月25日（火） 3か月予報と同時発表

寒候期予報（14時発表）

9月25日（金） 3か月予報と同時発表

早期天候情報（14時30分発表）

原則として毎週月曜日および木曜日に、基準を満たした場合に発表します。

月曜日が休日の場合は翌火曜日に発表します。

（気象庁ホームページ）

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

防災気象情報の入手法

気象警報・注意報

大雨、洪水、暴風（雪）、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける



危険度分布

(どこで土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示)

土砂災害



浸水害



洪水警報



各地の気象情報

気象概況や大雨の見通し



指定河川洪水予報

国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測



土砂災害警戒情報

避難勧告等の応急対応が必要な土砂災害への警戒を呼びかけ



雨雲の動き



今後の雨



レーダーナウキャスト

降水・雷・竜巻



観測データ

雨



風



衛星画像

